

慶應義塾に関連した出版物や教職員の最新著書などを中心に、本に関する情報をお届けします。

人気のキャラクターと一緒に 楽しく学べる学習ドリル

『すみっこぐらし学習ドリル
小学3・4年のプログラミング』

鈴木正二（幼稚園教諭）著・監修
主婦と生活社 / 1012円（2021年12月）



幼稚園教諭である著者は、ICT教育のスペシャリストで、国語や生活科の教科書執筆者でもある。人気の「すみっこぐらし」のキャラクターと一緒に子どもたちが学べる『すみっこぐらし学習ドリル』では、「国語」「算数」「英語」などのほか、「プログラミング」も執筆・監修する。小学校でのプログラミング教育が必修化され、家庭教育でも子どもの学習サポートについて悩むご家庭も少なくないだろう。パソコンなどを使わず、直感的にプログラミング思考や基礎的な考え方を身につける「アンプラグド・プログラミング」を用いた小学校中学年向けの学習ドリルである。

教職員執筆の最新刊

●岩間一弘（文学部教授）著

『中国料理の世界史―美食のナショナルリズムをこえて』
慶應義塾大学出版会 / 2750円（2021年9月）

●大串尚代（文学部教授）著

『立ちどまらない少女たち―（少女マンガ）的想像力のゆくえ』
松柏社 / 2750円（2021年9月）

●蟹江憲史（政策・メディア研究科教授、佐久間信哉（同特任教授）、高木超（同特任助教）著

『企業のリアルな事例でわかるSDGsの課題別推進方法』

第一法規 / 2750円（2021年9月）

●小林慶一郎（経済学部教授）ほか著

『ポストコロナの政策構想―医療・財政・社会保障・産業』
日本経済新聞出版 / 2750円（2021年11月）

●石井太（経済学部教授）ほか編著

『長寿・健康の人口学』原書房 / 3520円（2021年11月）

●小川原正道（法学部教授）著

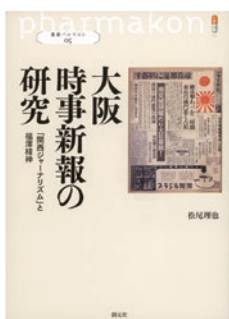
『明治日本はアメリカから何を学んだのか―米留學生と「坂の上の雲」の時代』
文春新書 / 968円（2021年11月）

慶應義塾の一冊

『大阪時事新報の研究―

「関西ジャーナリズム」と福澤精神』

松尾理也著
創元社 / 4620円（2021年7月）



塾員・塾生なら福澤諭吉が独自のジャーナリズムを実現するため、1882年に創刊した『時事新報』をご存じだろうか。しかし、1905年にその「分身団体」として創刊された『大阪時事新報』はいかがだろうか？ 同紙の短いジャーナリズム活動は、市民との距離が近く批判精神豊かな「関西ジャーナリズム」のもう一つの姿を体現していたのではないかと。本書は著者のそうした問題意識から生まれた。啓蒙主義的市民主義を掲げた挫折は、新聞メディア衰退期の今だからこそ広く知られるべきものかもしれない。